

研究・調査報告書

報告書番号	担当
6 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of non-Hodgkin lymphoma: a pooled analysis 飲酒と非ホジキン悪性リンパ腫の関連：統合データの解析	
執筆者	
Morton LM, Zheng T, Holford TR, Holly EA, Chiu BC, Costantini AS, Stagnaro E, Willett EV, Dal Maso L, Serraino D, Chang ET, Cozen W, Davis S, Severson RK, Bernstein L, Mayne ST, Dee FR, Cerhan JR, Hartge P; InterLymph Consortium.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Lancet Oncol. 2005 Jul;6(7):469-76.	
キーワード	
飲酒、アルコール飲料の種類、非ホジキン悪性リンパ腫、症例・対照研究	
要 旨	
<p>背景</p> <p>幾つかの疫学研究が飲酒と非ホジキン悪性リンパ腫の関連について報告しているが、一致した見解が得られていない。これは一つ一つの研究のサンプルサイズが小さく、悪性リンパ腫の病型やアルコール飲料の種類を考慮した検討ができなかったためと思われる。本研究では複数の研究データを統合し、病型やアルコール飲料の種類を考慮した上で飲酒と非ホジキン悪性リンパ腫の関連を明らかにすることを試みた。</p> <p>対象と方法</p> <p>国際リンパ腫疫学共同研究 (International Lymphoma Epidemiology Consortium, InterLymph) に参加している米国、英国、スウェーデン、イタリアの9つの症例・対照研究のデータを入手し、15,175人 (症例 6,492人、対照 8,683人) の統合研究のデータベースを構築した。性、年齢、人種、社会経済階層、研究センター (どの症例・対照研究に所属しているか) をロジスティック回帰モデルで調整して飲酒と非ホジキン悪性リンパ腫の関連を検討した。</p> <p>結果</p> <p>飲酒者は非飲酒者に比べて非ホジキン悪性リンパ腫のリスクが有意に低かった (オッズ比 0.83、95%信頼区間 0.76-0.89)。また飲酒者を現在飲酒者と飲酒既往者に分けると、現在飲酒者のほうが非ホジキン悪性リンパ腫のリスクが有意に低かった (現在飲酒者：オッズ比 0.73、95%信頼区間 0.64-0.84、飲酒既往者：オッズ比 0.95、95%信頼区間 0.80-1.14)。しかし飲酒量や飲酒開始年齢、飲酒頻度、飲酒期間、生涯飲酒量とリスクの間に量・反応関係は認めなかった。主に飲んでいるアルコール飲料の種類およびそれらの組み合わせによってリスクの減少度に差を認めなかった。病型別にみると飲酒によりバーキットリンパ腫のリスクが最も低くなっていた (オッズ比 0.51、95%信頼区間 0.33-0.77)。</p> <p>結論</p> <p>飲酒者は非飲酒者に比べて非ホジキン悪性リンパ腫のリスクが低く、特にバーキットリンパ腫のリスクが低かった。今後、この関連が他の交絡要因によるものか、飲酒の免疫調整系への作用によるものかを明らかにしていく必要がある。</p>	